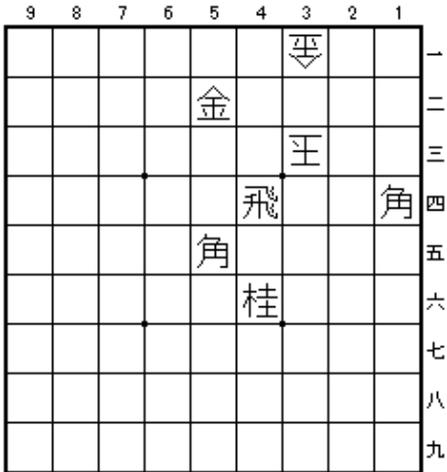


詰将棋解答選手権2024一般戦解題

① 藤原勝博作

34飛、43玉、32飛成、同金、25角まで5手詰



持駒なし

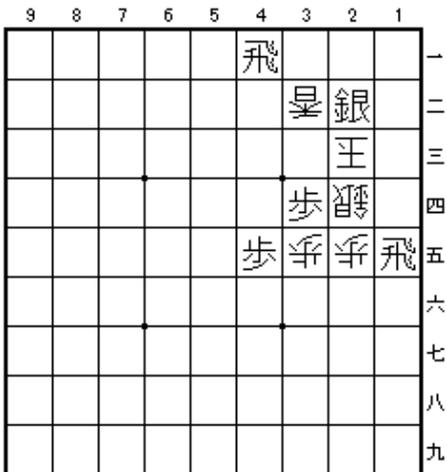
初手は開き王手するしかないようですが、たとえば42飛成では24玉から上部に逃げられ、また54飛は44歩と捨て合され同角、24玉、26角、13玉とかわされて詰みません。

中級者ぐらいになると玉を43に誘い25角と迫る手が見えてきます。ただちに43飛成だと同玉、25角、32玉と逃がしますが、この地点をふさいでおけば詰みだと考えることが正解手順の発見につながるのです。

本作の詰め上がりは、すべての駒が詰みに関与している、機能美の感じられる姿となっています。

② 沖 昌幸作

12飛成、同玉、21飛成、23玉、33銀不成、34玉、44銀成まで7手詰



持駒なし

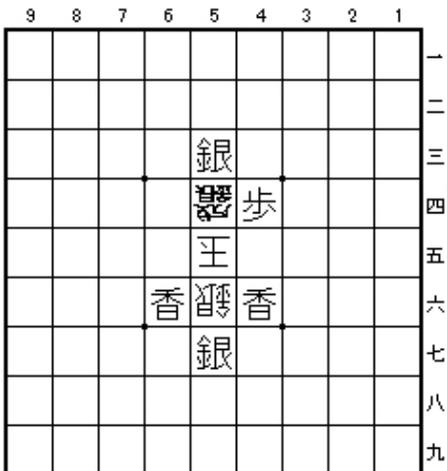
持駒はないものの、いろんな初手が見えます。33歩成は同香で、43飛成は22玉で詰みません。この形では15飛のほうを犠牲にして21に龍を据えるのが急所です。

5手目は開き王手のかたち。22銀の動かし方が成不成あわせ8とおりの選択肢あって、正解は33銀不成です。13玉なら24銀成、14玉なら24龍で駒余り。

34玉と逃がして44銀成までの詰み。銀の不成～成の動きがおもしろいと思います。

③ 渡辺直史作

65金、同銀、45金、同成銀、54金、同銀、56金、同成銀、64銀不成まで9手詰

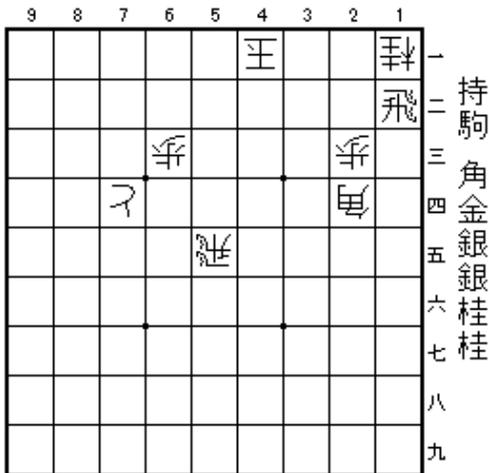


持駒 金金金金

初手45金だと、同成銀なら54金以下詰みませんが、同銀と応じられ65金、同成銀、54金、同玉で詰みません。そこで初手は65に打ちます。同成銀なら54金、同玉、64金、同成銀、同銀成、55玉、54金までで駒が余るため2手目は同銀で、45金、同成銀、54金、同銀(同玉だと駒が余る)以下の詰みとなります。

不動玉ほか趣向に満ちた作のところ、眼目は初形と8手進んだ局面との対比にあり、「これってもしかして…」玉方の成銀と生銀が入れ替わっています^^

④ 山路大輔作



31金、同玉、13角、41玉、53桂、同飛、42銀、同角、31角成、同角、33桂、同飛、52銀まで13手詰
(最終2手は「51玉、62銀」も正解)

盤上の攻駒は1枚。持駒を捨てて手をつくります。
初手32銀だと52玉から逃げられるので、虎の子の金を捨てて13角と打ち据えます。同角なら42銀、21玉、33桂、12玉、21銀、22玉、34桂までで早い。
41玉にたいし桂で53の退路をふさぎ、42銀で角を呼び、角を成り捨て、また桂で飛の守りをそらす…一連の捨て駒は妙手順といえましょう。清涼詰(攻駒2枚のみで詰め上がる)となる収束がこちよ。

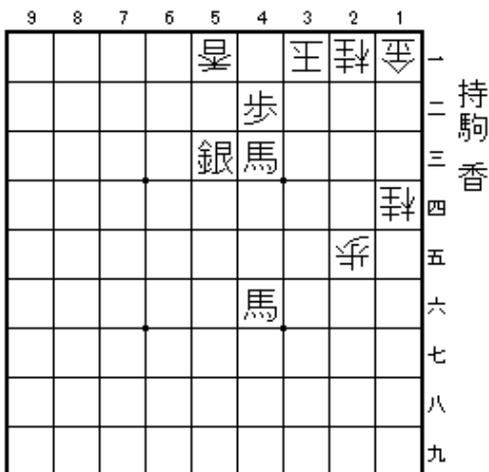
⑤ 武紀之作



73飛成、63と、35馬、44馬、57飛、56桂合、同飛、同銀不成、65桂、同銀、54歩、同銀、52銀成まで13手詰

打歩詰をめぐる攻防がテーマです。
初手73飛成にたいして合駒を打つと、35馬、44合、54歩、同と、52銀成で詰むので、63と、35馬、44馬の連続移動合で抵抗します。
54歩が禁手なので57飛とまわる。これには二歩が禁手のため56桂と打つのがもっとも長生きできる応手となります。同飛に同銀不成が最後の抵抗。
このあとは入手した桂と歩を打ち捨てて銀を呼び、退路がふさがってようやく52銀成が指せました。

⑥ 中澤宣幸作



33香、同桂、13馬、22飛合、41歩成、同玉、14馬、23桂合、同馬、31玉、21馬、同玉、13桂、31玉、43桂まで15手詰

初手は33香。香は下段からとばかり 39香と打つと34歩と中合いされ、同香、22玉、32馬、12玉となったとき45馬と王手できず詰みません。また34歩にたいし 13馬、同桂、34香、22玉、33香成と迫っても、12玉、34馬、21玉、22歩、同金以下詰みません。
2手目は同桂。22玉は前記45馬が王手となり早い。
3手目以降は合駒種の選択問題です。13馬にたいしては42に利かせる22飛合が最善。7手目14馬にたいしては、31玉だと23桂、同飛、42銀成、22玉、32馬、12玉、23馬上までで駒が余るため、23桂合が最善となります。手順のこまかいアヤを読む苦労、お疲れさまでした。